

8月27日 第1回授業改善研修会

今回は、広島経済大学 教養教育部教授の 嶋森裕暢 先生にお越しいただき、「主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫～ペアやグループによる振り返りを通して～」という演題でご講演をいただきました。以下、講演の骨子です。

○来たるべきSociety5.0（仮想と現実を融合させ経済の発展と社会問題の解決をめざす人間中心の社会）のために新しい授業の構築が急務である。

「主体的・対話的で深い学び」は、その方法として登場した。

○主体的とは「課題を自分事として捉え、自分の学習を振り返ること」、対話的とは「他者の考えを手がかりとして、自分の考えを広げること」、深い学びとは「学びで得た概念を使って、新たに構想・創造すること」である。

○それらを達成する入口として、授業では「振り返り」を活用し、授業の終わりに「わかった」と思える場面をつくることが大切である。生徒の学びを認め、たたえ、励まし、そして少し揺さぶるような支援を、学校全体として心がけたい。

